

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401134		
法人名	メディカルケアサービス株式会社		
事業所名	愛の家 グループホーム 千葉小倉		
所在地	千葉県千葉市若葉区小倉町1802-15		
自己評価作成日	平成29年2月18日	評価結果市町村受理日	平成29年5月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成29年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して12年経過しておりますが、行事等を通じて地域に密着した開かれたホームでありたいと常に意識しております。また、ご入居者様に置かれましても安心して住み続けられる生活の提供と楽しみのある毎日をお過ごし頂けるよう工夫し職員同士、共に日々奮闘しております。居場所を作り家族同様として暮らしていくことをコンセプトに生活訓練(家事等)を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して12年目、提携医師や訪問看護との連携も密であり医療健康面でも安心でき多くの看取りも経験し、法人理念の最期まで「その人らしさを大切に」ケアに努めてきている。入居者を良く知る・入居者の出来ることを見出し・して頂く・座りっぱなしにしないで一人ひとりが遣り甲斐をもって日常生活で取組んでいただけるよう、イベント行事を行うとともに、日々のコミュニケーション、役割、手伝い、散歩、地域との交流や個別外出、個別レク等入居者一人ひとりの個別自立支援に力を入れて取り組んでいる。新しいホーム長の下、「安全安心の確保・個々のケアを大切に・質の向上」とのホーム理念をチームで実践していくことが期待される。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員や管理者が入れ替わり月日が経過しておらず(約2か月)、日々の積み重ねで実践していこうと思います。	新しいホーム長の下・入居者を良く知る・日常生活の中で出来ることを見出し・して頂く、座りっぱなしにしないで認知症の進行を少しでも遅らせるよう、入居者個々の自立を継続できる支援をすることに取組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流出来ておらず、月1回程度の地域主催の会合に参加をしたことがあります。今後外に出たり運営推進会議等を通じて交流していけたらと考えております。	あんしんケアセンターのふれあいいきいきサロンや他事業所のお茶会に出かけている。ハーモニカ・手品・傾聴等地域のボランティアが定期的に来訪している。2校の中学生が職場体験に訪れ入居者とお話やゲーム等を一緒に楽しんでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者様のみで、まだ地域の人々に向けた支援が出来ないでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の実施はありますがその機能を活かすことが出来ないでいる。ご家族様や地域支援センターのご意見は誠意を持って対応させて頂いています。	あんしんケアセンター職員や家族、入居者が参加して、運営推進会議の趣旨説明に始まり、ホーム内人事、入居者状況、行事等の活動報告や事故報告を議題とし、写真入りの資料を使ってほぼ3か月に一度定期的に開催している。	町内会や民生委員等地域の方や他施設等の知見者にも参加を呼びかけ、本来の趣旨に則った運営推進会議としていくことを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回は市町村支援センターへ出向き、事業所の実情などを伝えているが協力関係は今後築いていけるよう努力していきます。	高齢施設課担当者やあんしんケアセンター担当者にホームの実情などを伝えるようにしているが、今後更に連携を密にし協力関係を築いていくようにしていくとのことである。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の研修を3ヵ月に1回の割合で行い、スタッフミーティング等を通じ全職員に周知徹底を図っております。	「高齢者虐待と身体拘束「ゼロ」に向けての取り組み」の研修を3ヶ月に一度実施し、職員に研修振り返りアンケートを記入させ理解と意識向上を図っている。「虐待・不適切ケアと身体拘束」チェックシートで各ユニットの状況を職員輪番制で記入し2ヶ月に一度本部に報告している。常に職員同士が注意し合えるようにし、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止等の研修を3ヵ月に1回の割合で行い、スタッフミーティング等を通じ全職員に周知徹底を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフミーティング等を通じ順次学習する機会を設けていく予定です。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけ説明しております。疑問点や不安があれば随時受け付けている事も説明しております。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などを通じて実施出来ればと考えております。	ホーム長より・健康医療面・今月の行事・スタッフからのお便り・計画作成担当者の今月のケア・入浴表と共にその月の写真を入れた千葉小倉通信と健康管理表を毎月家族に送付し入居者の近況を判り易くお知らせし情報共有を図っている。敬老会やクリスマス会等家族参加行事もあり、意見や要望等を言い易くしている。日頃面会に来る家族も多く、運営推進会議も含めて多くの意見や要望を頂き、会議で検討するとともに職員間で情報を共有するようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議などを通じて実施出来ればと考えております。	全体会議やユニット会議などで意見や要望を聞くようにしている。管理者も職員と一緒にケアに携わることも多く、日常的に意見や要望を言い易い雰囲気作りをし良く聞くようにしている。法人で毎年職員アンケートを実施しており、処遇改善や有給休暇取得等の要望が出されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	前向きに努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量に合わせ継続して勤務ができる様今後も工夫していきます。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などを通じ、同業者と交流する場に積極的に参加していこうと考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居される事前にしっかりアセスメントをとるようしております。何度も足を運び、お互いの理解を深める事が出来ればと思います。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>親身になってお話をさせて頂いております。本音でお話しただけいる様、雰囲気作りに努めております。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>じっくり時間をかけてお話しして頂けるよう色々な提案を提示させて頂く事もあります。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員も心を開いてお話しすることで同じ空間を過ごしているという認識を持って頂けると考えております。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族様の来所時等にお話しする時間を設け普段の様子などを報告・相談させて頂くことで信頼関係を作り支えて行けるヒントが見つかったりしますので今後も継続していきます。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>昔からお付き合いのある方の訪問があります。事前に連絡頂くケースが多く、対応させて頂いております。</p>	<p>元の住まいの近隣の方が家族ぐるみで訪ねて来たり、昔からお付き合いのあった友人が訪ねて来る。家族とお寿司屋さんに行ったり、行きつけのお店に買い物に行く、また、親戚の法事や仏事に参列する等の支援をしている。電話の取り次ぎなどの支援も行い馴染みの関係を継続できるように努めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>着席時の配置を考え、居心地の良い空間作りに努めております。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族様から相談がある時は今まで同様対応させて頂いております。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけその人らしさを活かした暮らし方の提案をしていけるよう努めております。	入居者の性格や思いを深く理解することを心がけ、表面的な行動だけでなくその背景を把握することを大切にしている。一人ひとりの能力を見極め、食事や掃除の手伝いなど出来ることをやってもらうことを尊重している。介護記録には言葉や行動の事実をありのままに記載するように指導している。入居者の言葉や職員が気づいたことを自由に記載するセンター方式の「私の姿と気持ちシート」の利用が予定されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前アセスメントにて把握しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察して職員同士でも常に情報を共有できるように努めております。申し送りノートの活用にて出来ています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフミーティングを通じみんなで意見を出し合い試行錯誤しながら計画作成しています。	計画作成担当者が介護記録や職員からの意見を考慮して短期目標毎のモニタリングを3ヶ月毎に実施している。面会時を利用して家族から意見を聴取し、訪問医の意見も取り入れケアプランを作成している。ユニット会議では、入居者の力を考慮した食事の手伝いの内容変更など、職員からの提案を取り入れている。居室担当者が記録した入居者の生活面での様子や行事、往診結果、入浴状況などのケアプランの実施状況が「小倉通信」として毎月家族へ報告されている。	以前に実施していた全職員によるモニタリング実施の再開に期待する。また、職員が常にケアプランを意識できるように、介護記録に短期目標・サービス内容を添付する等の工夫が望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来ています。情報の共有を意識し常に工夫する体制であります。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場での意見交換や新たな問題に対し色々な角度から見つめなおしたり柔軟な支援を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用まで出来ておらず、今後提供していきたいことの1つです。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	治療内容はご家族の同意のもと、行われております。担当医との繋ぎ目であると考えております。	入居者・家族の希望に沿って月2回の往診医による受診が行われている。事前に入居者の症状の変化や気になる点、相談事項を随時、「往診伝達事項」に記入し備えている。受診時には排泄・水分量・バイタルが記載された「健康管理表」を提供し適切に受診できるように配慮している。報告事項や処置内容、処方薬などの受診内容をホーム長が一覧表に整理し、職員間の情報共有を図っている。入眠薬の変更などはその都度家族の同意を得て対応している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細かな事まで相談出来る体制です。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、必ず、週1回はお見舞いに行きます。そこで担当看護師や医師に話を聞く事が出来ればお話しする事もあります。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これから起こりそうな事態も含めお話しさせて頂いてます。ご家族様の意向もしっかり把握し事業所として出来る範囲の事はご理解を頂き実施し、常に関係者と情報共有しながら支援しております。	「その人らしさを大切にすることは終末期においても何ら変わることがない」との法人の理念に沿って、直近の1年間で4例の看取り介護の実績がある。「重度化した場合の対応にかかる指針」や「看取り介護にかかる指針」を入所時に具体的に説明している。家族から看取りの意向が伝えられた際は、主治医や看護師との連携のもとにケアプランの変更を行っている。支援内容や方法の検討、本人・家族との関わり方など全職員が看取り介護の支援に取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実際に起きた事例を踏まえながら研修として行っております。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施を年2回行っております。	全入居者、職員の参加による日中・夜間帯の火災避難訓練を年2回実施している。夜間火災想定訓練時には1階、2階の夜勤者がそれぞれの役割分担に基づき、消火・通報・誘導の実践的な訓練を実施している。車いす利用者の誘導法や見守りの徹底などが訓練後に職員間で話し合わせ対策を図っている。施設内駐車場を災害時の地域住民の避難場所として提供することを、運営推進会議を通じて提案していく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長い人生を積み重ねて来られた経緯を尊重し、普段の会話の中からその人らしい過ごし方を提供していける様な前向きな言葉かけを実施しております。	上から目線にならないように「どうですか」などの丁寧な言葉使いを心がけている。造園の仕事の経験のある入居者には植木の手伝いをお願いしたり、花の好きな方にはフラワーショップへの買い物に行ってもらうなど、趣味や好みを大切にされた支援が行われている。トイレ誘導時の声かけの際は周りの入居者に気づかれないように配慮している。言葉使いや対応で気になる場面に遭遇した際は、職員間で指摘し合い、ユニット会議や全体会議でも徹底を図っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの仕方の工夫を実施してます。その方の表現できる言葉を自発的に発語できる様努めております。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きな時間に好きなように過ごせていると思います。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時にはお化粧をしたりおしゃれなお洋服に着替えて外出できています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や皿洗い、食器拭き、収納等出来る事が多く皆さんに参加していただいています。	入居者と一緒に近くのスーパーへの食材の買い物やホーム内の畑でオクラやトマトを収穫し食材にしている。入居者一人ひとりの力に合わせて下膳や食器拭きなどを手伝っている。おせち料理や敬老会のビュッフェ料理など季節感や生活を感じる食事を提供している。節分の恵方巻きや餃子など入居者が一緒に料理する支援に力を入れている。また入居者の希望に応え、会席料理バスツアーなどの外食イベントも定期的実施している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在の状態を保つためにお食事の内容や量、水分量を記録として保存しております。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しております。丁寧な予防ケアに力を入れています。支障が生じた際は訪問歯科にて対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入院中オムツ使用の方が現在はリハビリパツで過ごせたりしてます。自立に向けた支援を継続しています。	ユニット毎に車いす対応の広いトイレが3ヵ所設置されている。掴まりやすい位置に手すりや効率がよく取り付けられ安心して使用できるように配慮されている。管理者はオムツゼロやトイレでの排泄にこだわり、入居者の排泄のリズムを保てるように努めている。トイレでの排泄がうまくいった際は「間に合っただけよかったね」と失敗を意識させないような声かけを心がけている。掃除の手伝いや廊下の歩行など体を動かすことにより、自分でトイレに行く意欲や自信につなげている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の観察にて調整し、必要であれば担当医へ連絡・相談を実施しております。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前には本人に告知し、了解を得て実施しております。	入浴は週2～3回、午前中に多くの入居者が利用しているが、希望する場合は就寝前の利用も可能である。浴室には掴まりやすい位置に手すりや滑り止めマットが設置されている。車いす対応の入居者には2名の職員が介助し安全な支援が図られている。入浴を嫌がる入居者には「背中に薬を塗りましょう」など声かけを工夫し浴室への誘導を試みている。また、一人ひとりの体調や健康状態を考慮し浴槽の湯量や温度調整に配慮している。毎月送付の「小倉通信」に入浴表を入れ家族に報告している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった時間に皆さんお休みになれる事が多いです。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の観察にて対応させて頂いております。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	概ね出来ていると思います。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回は外出レクの実施で外出してます。その他、生活必需品などの購入もご利用者様とお買い物に行きます。	神社参拝や花見、イチゴ狩り、遠出のバスツアーなど、季節ごとのイベント外出に力を入れている。毎日、近くの公園へ15分ほどの散歩に出かけ、自然に接して気分転換を図っている。筋力が保持され表情が明るくなってきた入居者もみられる。家族と一緒にホームセンターへの日用品の買い物や外食を楽しんでいる。また、親戚の法事に出かけるなどこれまでのつながりを大切に外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望・了解を得て、多少の現金をお小遣いとしてお持ちになられている方もいます。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的にご家族様から電話連絡があったり、ご希望があればご利用者様から連絡をする事もあります。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖かい色の照明にして設置してます。 共有部は常に清潔を心がけております。	採光の良い明るいリビングでは入居者同士が会話を楽しみ、ソファやコーナーのスペースで思い思いにくつろいでいる。季節の花やレクリエーションのスナップ写真、習字の作品を廊下に掲示し、殺風景にならないように明るい共有空間づくりを心がけている。敷地内の畑には入居者が手入れをしたソラマメやジャガイモ、トマトなどが栽培され季節感を味わっている。また毎朝、フロアの掃除やテーブルの整理を入居者も一緒に行っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日の当たる場所での椅子の設置やソファや畳の部屋での休養にクッションなどを設置しております。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心していられる空間としてご本人と相談し、居心地の良い、お部屋に工夫しております。	仏壇や使い慣れたテーブル、家具などが家族の協力で居室に自由に持ち込まれている。電子レンジや冷蔵庫も持ち込まれ、仲の良い入居者や職員と一緒に茶やワインを楽しんでいる方もみられる。入居者の好みや習慣に応じてベッドや家具の配置を考え、自分の空間を感じてもらえるように配慮している。居室の前には本人の顔写真や行事の写真、手作りの木製の名札が飾られ、混乱せず入室できるようにしている。自分で室内の掃除をする入居者も多く、職員のサポートにより清潔な居室づくりが行われている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内シートを作成し、ご利用者様が見て理解できる内容の言葉で表現し張り出したりしています。		